

平成 28 年 7 月 19 日

瑞浪市長 水野光二 様

瑞浪市市民まちづくり会議
会長 加藤 博之

「瑞浪市まちづくり基本条例に基づくまちづくり」の検証結果について(答申)

平成 27 年 7 月 27 日付、瑞市協第 120 号により諮問のありました「瑞浪市まちづくり基本条例に基づくまちづくりの検証」について、下記のとおりまとめましたので、答申します。

記

まちづくり基本条例取組推進方針に基づく取組みの個別検証について

以下の 5 件の取組みに対して検証を行い、意見を取りまとめました。

(1) 自治会加入の促進

行政において、自治会加入のメリットを更にわかりやすく PR していただくとともに、各自治会においても、積極的な加入者増に向けた取組みを実施されることを望みます。

(2) まちづくり推進組織支援・まちづくり推進協議会連絡会の開催

地域の課題解消に向け、各地域において自治会とまちづくり推進組織との協議の場を設けるなど、課題共有・連携強化を図られたい。また、地域の垣根を越えて、他地域で行われているイベントや伝統文化行事にも参加できるよう、組織間の情報共有に留まらず、市民への情報提供を強化していただくことを望みます。

(3) 夢づくりチャレンジ研究室設置

まちづくり活動に積極的に参加する若者を育成するために、研究室を継続していただくとともに、更に多くの若者の参加を促すため、情報発信の強化や、参加しやすい雰囲気作りにも配慮されたい。

(4) 夢づくり地域交付金制度の運用

各地区のまちづくり推進組織において、事業計画段階で地域住民から意見聴取をするとともに、地域住民においては、自主的参加を促進していただきたい。

また、行政においては、活動内容だけでなく事業成果を含めた情報発信を望みます。

(5) 夢づくり市民活動補助制度の設置運用

補助金による財政的支援に留まらず、活動団体の育成のために指導や助言を行っていただくことを望みます。また、利用しやすい制度となるよう申請手続きの簡素化や、わかりやすいマニュアルの作成なども検討されることを望みます。

なお、本会議では、行政のまちづくりに関する取組推進方針に基づく取組みの個別検証に加え、「人口減少に伴うまちづくりへの参加について」を検討すべきテーマとし、討議を行ってまいりました。

人口減少が進む中、地域の現状と課題、それに対する取組みを検証する中で、幅広い年代の方々に、如何に興味関心を持っていただき、まちづくり活動への参加に結び付けていくかを別紙のとおりまとめましたので、併せて報告いたします。

条例が制定されて1年が経過しました。しかし、市民全体にはまだ条例の内容が充分浸透していないものと感じます。条例が目指す「市民一人ひとりが瑞浪市民であることに誇りを持ち、幸せな暮らしが実感できるまちづくり」を実現するため、市民まちづくり会議では今後も検討を続けてまいります。

まちづくり全般に関する取組み検証について

地域でのまちづくり活動の現状と課題を検証することにより、幅広い年代の市民に興味関心を持っていただき、参加者の増に繋げたいとの意見から、次のとおりテーマを設定して意見を取りまとめました。

(1) テーマ 「人口減少に伴うまちづくりへの参加について」

(2) 課題とその解決法

① 若者参加の促進

中学生、高校生の参加については、学校との連携が有効と考える。また、小学生については、保護者を巻き込んだ取組みが必要である。

チャレンジ研究室の提案事業について、企画から実施運営まで研究室のメンバーが参加することで、地域の活性化、更なる若者参加に繋がるとよい。

人口減少が進んでいるが、地域の伝統行事に、他地域から参加できれば、伝統文化の継承と、人の交流による地域活性化に繋がるのではないか。

② 後継者育成

若者ばかりでなく、余力のある定年後の世代をまちづくり活動に取り込み、得意分野を活かす場を作ることで、生きがい作りと担い手の確保に繋がる。

小・中・高校生の参加を軸とした事業を立案して、子どもたちとその保護者をまちづくりに取り込んでいけたらよい。

(3) 市民、議会及び行政の役割と責務

まず、市民自身が、瑞浪市の良いところを知る必要がある。また、地域には、文化財や伝統行事などについて豊富な知識を有している方もみえる。こうした人材を発掘し、地域で活かしていけるような取組みが必要である。

行政については、広報、ホームページでの既存の情報発信手段のみでは不十分であるため、SNS、フェイスブックなどの活用についても検討していただきたい。

また、高校生の活動への参加を図るため、域学連携協定により、高校と地域をつなぐ仲介役としての役割を積極的に果たしていただきたい。

(4) 考えられる市民の参画方法、子どもや若者への参加への配慮

市民は地域にこだわらず、各地域の行事に積極的に参加するとともに、自分の住む地域のまちづくり推進組織に対して、積極的な事業提案や意見を出していくことが必要である。

また、地域との繋がりが少なく、地域の活動に参加ができない女性も多くみえる。ワールドカフェの手法を取り入れるなど、若者や女性が参加しやすい場を作り、多様なアイデアや意見を得る機会を作ってはどうか。

子どもや若者に対しては、周りの大人が声をかけ、参加しやすい雰囲気づくりに努める必要がある。また、保護者が参加できない子どもに対しては、地域で声をかけ、見守り、一緒に参加する環境を作っていくことも必要である。